

令和7年度 岡山県立勝山高等学校
第1回 学校運営協議会 及び 学校関係者評価委員会

日時：令和7年5月19日（月）

15：00～16：45

場所：会議室

1 校長挨拶

本校に赴任して最初にしたことは、気持ちの良い挨拶と笑顔が飛び交う学校だということであった。日々、様々な教育活動の中で、地域の方々が学校を支えてくれていることを実感している。学校だけでなく、地域の中でも学びや人との関わりがあることには、本当に感謝している。本校の課題を共有しながら、より良い学校づくりにつなげたい。

2 出席者紹介

3 学校運営協議会について

(1)岡山県立学校における学校運営協議会の設置について (p. 6～8、p. 27～32)

(2)岡山県立勝山高等学校における運営協議会について (p. 9)

資料についての説明

4 学校関係者評価委員会について (p. 2、p. 10)

資料についての説明

5 会長選出

事務局より住田明大様を推薦し、委員より了承を頂いた。

6 会長挨拶

住田明大 様

学校運営協議会が、堅苦しいものでなく、自由に意見を出し合う場となり、より良い学校づくりにつながればよいと考えている。

7 協議

(1)部会の設置について

本年度は部会を設置しないということを、委員より了承していただいた。

(2)令和6年度の教育活動について (p. 11～15、校誌「鼓山」)

地域連携担当 p. 11～14

1年次生の校外研修は、「真庭市のことを知り、将来は地域に戻ってきてほしい。」という思いから続けている。イタリアとの交流については、現在はオンラインでの交流が決定しており、本校生徒4名が参加予定である。鼓山塾に関しては、昨年度までは「まちと学びのイノベーション」にお世話になっていたが、今年度は本校主体で現在講師を検討・依頼中であり、様々な分野の講座を開きたいと考えている。

進路課長 p. 15

昨年度の国公立大学合格者は24名（既卒者1名を含む）。生徒数が減少したが、合格

者数はここ数年と引けを取らない。就職した生徒は6名であり、増加傾向である。

生徒課長

校誌「鼓山」p.15に、昨年度の部活動実績を掲載している。特に卓球部・水泳・空手・スキーの分野で中国大会に出場しており、野球部・女子バレーボール部・サッカー部・バドミントン部は県大会で優秀な成績を収めている。文化部も成績を残している。

(3) 令和6年度学校評価書について (p.16)

資料についての説明

(4) 令和7年度学校経営計画書等について (p.5、p.17~18)

瀬島校長

グランドデザイン (p.4)、学校経営計画書 (p.5) は、昨年度から変更していないが、職員会議などの場で「教員の授業力の向上」について繰り返し職員に訴えてきた。そのために、授業でどのような力を身に付けさせたいか、また、授業者が掲げる目標を生徒と共有できているか、そしてそれらを意識した授業における適切な評価の方法について研究するように伝えている。また、地域や小中学校との連携・協働については、学校の魅力を発信しつつ、連携・協働の中で生徒の力を伸ばすようにしていきたい。

教務課長

昨年度までは、ICTを中心に環境整備や教員の負担軽減につながる取り組みを続けてきた。今年度は授業改善に向けた校内研修を企画している。外部講師による研修や、校内での研究授業とその研究協議を計画している。広報については、年間計画を立て、適切な時期に勝高Voiceの発行やホームページの更新を行い、生徒募集に繋げたい。

進路課長

授業力・進路指導力向上に向けて、12月までに研修に4回以上参加するよう呼びかけている。今年度は年次によって生徒数に差があるため、外部模試の目標を%表示に変更した。また、新たに進路指導の手引きを作成して、3年間を見通した指導計画を職員同士で共有できるようにしたい。夢現プロジェクトは、進路研究に役立つように指導を行う。

生徒課長

ボランティア参加を通じて、地域の魅力の再発見につなげたい。勝山こども園での清掃ボランティアも計画中であり、さまざまな地域とつながるようにしていきたい。SNSでの発信は、年間10回を達成しても、さらに多くの発信を行っていく。また、部活動の中高連携に関しては、年度当初の部顧問会議で中学校との合同練習等も積極的に実施するよう呼びかけている。

厚生課長

90%以上の生徒が「自分を大切にする」意識を持てるように、生徒の状況に応じて取り組みの内容を調整していきたい。講演会の企画や保健だより・教育相談だよりの発行などを計画している。

年次団

いずれの年次も、進路実現に向けてきめ細かな面談を行う予定であり、すでに1回目の面談が終わっている。達成基準は、進路に関するアンケートの結果で判断する。

(5) 令和7年度の主な事業および学校の現状について (p. 19～24)

吉原副校長

真庭市からの高等学校魅力化応援事業としての予算が360万円程度となっている。小学校や大学との連携に活かしたい。ダンス部の外部指導者の導入にも充てており、ダンス部員は現在6名である。真庭市の補助により実施するオーストラリア研修には、選考の結果、本校からは11名が参加する予定である。病院や農場、経営に関する研修や、現地高校生との交流などを予定。また、p. 3から1年次生の生徒数は89名と大きく減少しており、p. 24から特に団体競技の部活動の存続が厳しくなっている。募集定員の減少に伴い、教員数も徐々に減らされるため、部活動の存続について協議をしていく必要がある。

委員A

p. 17における3年次団の達成基準にある第一志望合格率80%とはどの程度の目標なのか。昨年度の第一志望合格率はどのくらいであったのか。また、夢現プロジェクトが進路実現につながっているのであれば、学校の魅力化につながるのではないかと。

吉原副校長

夢現プロジェクトが進路実現に役立つかは、探究内容が自分の進路とどの程度関連しているかに影響する。グループでの探究が基本なので、自分だけの興味ではできない場合もある。

委員B

自分の進路と無関係な分野を探究しても、自分で考える訓練としては意味があるだろう。

委員C

p. 3「生徒の状況」1年次生の出身中学校の「その他」は、具体的にどこの中学校なのか。

教務課長

津山市立北陵中学校から1名、新見市立新見第一中学校から2名。真庭市外の中学校にも広報を行ってきた成果ともいえる。

委員D

p. 17における年次団の目標や取り組みの内容は、特に「面談」について年次ごとに具体的にどのように異なるのか。また、それぞれの取り組みを行っている現状での手応えはどのようなものか。

進路課長

1年次生の前半は職業や大学調べ、また視野を広げることを優先した面談を行う。1年次生の後半から2年次生にかけては、進路実現するための方法について見通しを持つような面談を行う。3年次生は、現実的にどのような受験方式や就職活動を行うのかを決定するための面談を行う。手応えとして、3年生は具体的な見通しを持った生徒が多かったが、1・2年は学習習慣の定着や学校生活への慣れなどを促すような面談が多かった。

委員D

2年次生の学習姿勢が非常に重要である。生徒の苦手に向き合った課題を与えることができればよい。p.17における3年次団の「個別最適化」とは具体的にどのようなことか。

進路課長

個別の課題設定は難しいが、習熟度別クラスごとに課題を設定している教科もある。

(6)令和8年度入学生について

吉原副校長

令和7年度入学生より、コース制を設置。特定の学部や専門学校、就職などを目指す人文Ⅱ・自然Ⅱコースを新設した。このコースでは、数学・理科の教養を学ぶ授業や、生成AIについて実践的に学ぶ授業などを展開する。

委員D

単位数や講座の内容など、具体的な教育課程を教えてほしい。

教務課長

詳細は本校のホームページに掲載している。現2・3年生と比べ、選択科目の選び方を整理し、コース制にしたことでコースごとに異なる課題の設定などができるようになっている。

8 意見交換

委員E

新教育課程の入学者選抜は、学力によっては定員内でも不合格になるのか。

吉原副校長

詳細は回答できないが、県立高校では定員内不合格を出しているところもある。本校では就職志望者が増えて学力層が多様化しており、大きく定員割れしている状況もあるというところでご理解いただきたい。

委員F

千葉県にあった母校は、かつて10クラス規模だったが、現在廃校になってしまった。学校の魅力をどのようにアピールし、生徒の良さを伝えていくかが課題であろう。

委員G

学校現場に関わるのが非常に久しぶりで新鮮に感じられることが多かった。各中学校において、勝山高校に入学する生徒の割合は減っているのか。

吉原副校長

減少している。中学校の生徒数減少や、私立・県南高校に進学する生徒の増加が要因。

委員G

学校祭の準備の様子を見ると、活気があってよかった。これを地域や中学生に伝えられたらよいのではないか。勝山中学校などの近隣中学校を呼んで、合同での活動ができたらよいと思う。こちらが出向くだけでなく、外部に来てもらう機会を増やせたらよい。

委員 C

留学は素晴らしい。魅力化につながるので続けてほしい。ダンス部には、地域のステージイベントにぜひ参加してほしい。久世中学校 2 年生が、職場体験の後に座談会のような形で地域の大人と振り返りを行うのだが、そこに高校生にも入ってもらえたらよい。

吉原副校長

留学参加者は 3 校（地）全員が共通のプログラムとなるのでそれが課題である。今年度、勝山中学校では、例年行う高校説明会の代替として勝山高校生と直に触れ合う機会が設けられている。本校のダンス部は初心者も多いので、十分に実力を付けてから参加したい。

委員 B

昨年度に実施した「だっぴ」は、高校生の声が聞けてよかった。家族以外の大人と一緒に何かを経験することで、視野が広がることもある。部員が少ない部活動については、小中学生と一緒に練習したり、彼らを指導したりするのがよいのではないかな。

吉原副校長

真庭市の協力により有名なスポーツ選手等を本校に呼ぶことができれば、小中学生を招いてイベントを実施するなどよいと考えている。

委員 H

学校現場は、答えのない課題を常に考え続けているのだと感じている。真庭高校の食品開発チームに関わって、生徒の発信力やアイデアの豊かさに圧倒された。生徒が持っている個性をどれだけ引き出せるかは大人の腕によるものだと感じた。

委員 I

普通科高校の魅力は大学進学が柱となるから、進学実績は必要である。中学校における部活動の外部委託がなかなか進んでいないため、中高での日常的な合同練習ができればよいのではないかな。可能ならば小学校も巻き込めるとよい。また、勝山高校卒業生で小中学校の教員をしている人たちにも呼びかけ、意識づけをする必要がある。

委員 D

部活動の小中連携は、真庭市教育委員会を巻き込む必要がある。また、進学実績が学校や生徒のブランド化になるので、学力向上は必須である。併せて、そのために勝山高校が現在行っている様々な取り組みを、保護者や地域にも示していかなければならない。また、勝山高校卒業生で活躍している人の話を聞かせてあげられたらよい。勝山高校での学びが原点になっているという卒業生の話を地域や中学生に聞かせることができれば、勝山高校で学ぶ意味や意義が伝わるのではないかな。

9 その他

(1) 第 2 回学校運営協議会について（11 月～12 月上旬で調整）

(2) 再編整備 PT について

瀬島校長

県としては、地域のニーズを踏まえつつ、明確な期限を設定せず議論を重ねていく意向

である。地域の小中学生および保護者にも意見を述べる機会を設ける予定である。

(3)その他